「これからの若者の働き方」として私は若者がよく転職することを主張したい。

なぜなら、まず今の就職環境は悪いからだ。大学の学歴があっても、給料の安い仕事しか見つからない。。たくさんの仕事は低賃金で長時間働く。次に就業観の変化だ。若者の間では、一つの会社に一生勤めるものだという考え方が次第に変わりつつある。そのため、転職を通じて自分の好きな仕事を見つける若者が増えている。最後にもっと自分の気持ちを考える。生活のために就職することはない。ある人は今の安定した仕事を放棄して、もう一度自分の好きな仕事を探す。

 これに対して、「わがままだ」という人もいるかもしれない。しかし、ストレスのある職場に長くいるのは、身心を消耗させるだけです。

 以上のことから私は生活が豊かになった今、私たちはもっと精神的なニーズを満たすことができると考える。だから、若者はよく転職するのも悪くない。

これからの若者には非正規雇用を選ぶ人が多いと思う。つまり、時間と人民の需要の変化によって自分の仕事を変えることだ。柔軟性のある働き方だ。

 なぜなら、まず今の大学生の就職率は低く、正規の仕事に応募できない人が多いからだ。次に、いろいろな人工知能が発展しているため、多くの仕事が人を必要としなくなっている。未来のある日、多くの人の仕事がロボットに取って代わられるかもしれない。最後に、実践経験も大きな問題だ。十分な実践経験がないため、いくつかの仕事をするのは難しいだろう。

 今ではこのような仕事は不安定で、収入も高くないと思っている人が多い。しかし、どんな仕事も自分の好きなものを選べばいいと思う。人目を気にせず、自分が続けていけばいいのだ。

 だから、以上のことから私は多くの若者が非正規職を選ぶと考える。

「これからの若者の働き方」として私は働き方の多様化を主張したい。

 なぜなら、まずは影響を与えるのは若者の生活環境。今の若者は自分の欲しいものを簡単に手に入れることができる。それによって、この世代の若者は欲がない。贅沢品を求める必要もなくお金も必要ない。次に、テクノロジーの進歩で働き方が増えている。パソコンや携帯電話でも仕事ができ、場所が制限されない。多くの若者が在宅勤務やフリーランスを選ぶ。最後に、彼らは自分がやりがいを感じることを楽しみたいと思う。お金のために不愉快なことをしようとしない。そのため、自分の好きなやり方で仕事をするようになった。

 これに対して、就職難だから,若い人のほうが働くという人もあるかもしれない。しかし、今の若者は今の若者は職場での不公平を容認しない。きつい働き方も受け入れない。

 以上のことから、私はこれからの若者の働き方は多様化しやすくな

「これからの若者の働き方」として私はインターネットで仕事をすることを主張したい。

　　なぜなら、まずインターネットで仕事をするなら、住んでいる部屋は会社に近くなくてもいいだからだ。次に、会社で仕事をするなら、毎朝時間をかけて会社に行く。しかし、インターネットをするは時間もかからないし、移動費も節約できる。最後ネットワーキングは仕事の時間や場所を決めることできる。

　　これに対して、ネットワーキングに向いていない仕事があるとか、自由すぎるとかえって効率が悪いという人もいるかも知れない。しかし、若者はネットワーキングに適した仕事を選ぶことができます。また、自分を律しない人はどこで仕事をしても効率が上がらないので、勤務地のせいではない。

 以上のことから私はインターネットで仕事をすることを主張したいと考える。

主張したい結論:マルチドメイン開発とフレックスタイム制度を採用する。

支える客観的情報:中国政府網によると、若者は一つの分野で働くだけでなく、さまざまな副業をしている。同時に若者はフレックスワーク制をより好むようになり、これは人々の仕事への積極性を高めるのに役立つ。

反対意見:若者は仕事の分野が多く、仕事の質が高くない。フレックスワーク制は管理に不利である。

反論:多分野就業は若者の能力向上に有利である。会社は1週間の2日間、フレックスワーク制を採用することがでる。

 科学技術の進歩で、若者の就職も単一ではなくなった。若者は仕事のフィールドが増え、就職先も多様化しています。中国政府網によると、フレックスワーク制をとる若者が増えている。一部の人は若者の多分野の仕事を心配しており、仕事をうまくやるのは難しい。若い人は強い能力を持っていて、時間をかけて仕事の内容を学ぶことができる。

「これからの若者の働き方」として私は週休3日で、水曜日も休日にすることを主張したい。

 なぜなら、まずは自分の経験だ。今年の清明は水曜日に一日休暇があった。私はとても元気で、勉強の効率は高くなった。次ぎはマスコミの情報だ。広東省の人民代表大会の代表は水曜日を増やす提案をした。そうすれば、従業員はストレスが減り、働く効率が高まるらしい。。最後に専門家の意見だ。専門家は多方面を分析した。「水曜日を休みにすることには社会意義がある。例えば、消費を促進できる。人民の幸福感が高まる。

 これに対して、二日の休みは結構だという意見人もいるかもしれない。しかし、五日間の連続勤務は大変だ。多くの人は月曜日や火曜日は元気だが、、水曜日は少し疲れがでるて、木曜日になると疲れ切っている。金曜日は仕事に集中するのが難しい。

 以上のことから私は週休3日で、水曜日も休日にしたいと考える。

「これからの若者の働き方」として私は家で働くことを主張したい。

なぜなら、まず、通勤時間や交通費の節約につながるからだ。その結果、睡眠時間が増え、エネルギーも向上する。次に、外界から仕事に支障をきたすものが少なくなるからだ。例えば、職場の同僚から電話がかかってきる。そのため、より仕事に集中することができる。最後に、ワークライフバランスがよい社員は、仕事への満足度を高めるからだ。仕事へのモチベーションが上がる。これらのメリットは企業にとっても社員にとってもありがたいものだ。

これに対して、オフィスのほうが仕事の効率がいいという人もいるかも知れない。この考えには正しいところがある。しかし、それを自宅でサッとできるようになれば、残りの時間はすべて自分のものになる。仕事へのモチベーションが上がるはずだ。

以上のことからわたしは在宅で仕事をする人が増えていくと考える。

「これからの若者の働き方」として私は一日に8時間働いて、毎週二日休んで、残業すると、残業代をもらうのを主張したい。

　なぜなら、まずはそのような仕事が平等だからだ。次に、そうすれば、上司も労働者もいい労働環境で働くことができる。最後に、仕事が大変でなく、上司との関係が平等で給料が少し低くても、文句をあまり言わないと思っている。

　それに対する反論もある。たとえば、「996」言われたことがある。「996」とは午前9時から午後9時まで、毎週に6日通勤することだ。「996は若者の幸せだ」と言う人もいるかもしれない。しかし、そんなに働いても、家にしろ、車にしろ、手に入れるのがとても難しい。十年以上働いて、やっと家を買う人も多い。そうすると、働きがいがなくて、ただ生きているために通勤すると思う。今の時代はそうではないのだ。

　以上のことから、私は労働関係の平等が大切だと考えている。

「これからの若者の働き方」として私は毎日会社に通わずに家で働くことを主張したい。

 なぜなら、まず家で働いているそういうふうに、効率を上げるだけでなく、仕事と生活のバランスも取れるからだ。次に、通勤費や仕事着料についてのお金を節約できる。最後に、家では自分の時間を使えばもっと自由でストレスを解消することできるといったメリットがある。

 これに対して、そのようにすれば人どうしの連絡が減ってしまって関わり合いがうまくいかないようになり、ほとんどの人は怠けてしまい 、高い自律性が求められるだろうという人もいるかもしれない。

 以上のことから私はインターネットの発達にしたがって、同僚といつでもメッセージやビデオ通話できるようになった、また集中力を養うのにちょうどいいので家で仕事するのがよいと考える。

このテーマとして私はこれから夫婦二人で働きながら、育児することを主張したい。なぜかと言うと、次のように考えている。

まず、男女を問わず、誰も対等に自分の夢を叶える権利があり、育児で女性の権利を奪うのはよくない。それに、男性の仕事のストレスが分担できるだけでなく、女性の育児も手伝える。そして、和やかな家庭環境で、色々なすれ違いを避けられる。

次に、今の若者は子供の時、両親が別のところで働いて、自分しかない学校に通い、或は、他の親戚に迷惑をかけ、そういう環境で成長していた。はやり心から何かが失なわれたという気持ちがあるように思われる。だから、そういうことを子供に与える気持ちになった。

これに対して、仕事ははっきり分けたほうがいいと思う人もいるかもしれない。しかし、同じ家族なら、「俺が守る」という気持ちで責任を問わずにやるはずだ。

以上のことから私は夫婦二人で協力するという働き方と考える。

「これからの若者の働き方」として私は「若者は制約された職場を嫌う」主張したい。

なぜなら,若い人は制約のない環境のほうが効率よく仕事ができるからだ｡束縛されずに自発的に働くという研究結果がある。まず,本来決まっている労働時間を、理由もなく延長するように言われると、反発してますます働きたくなくなる。次に仕事が終わって帰りたいと思っている人が多い、上司が「一緒に食事に行こう」と言った。不快に思う人もいるかもしれない。最後に、仕事の名目で定時までに働けと言われることがある、これは1日の中に自分の時間がなくで、仕事が嫌になる。

これに対して、若い人はまず束縛されて自覚を持ち、能動的に働き、束縛されながら自分の生産性を高めるべきだという人もいるかも知れない。しかし,若い人を束縛してばかりいると、やる気がなくなって非効率になる。

以上のことからわたしは若い人は束縛されることを好まないと考える。

　「これからの若者の働き方」として私は若者の働き方はますます柔軟になることを主張したい。

 なぜなら、まずハイテクノロジーの進歩によりリモートワークが可能になる。次に、若者は仕事以外のことに集中し、柔軟な仕事は若者自身に仕事や娯楽を計画させることができる。また柔軟性の働き方は複数の仕事を選択して収入を増やすことができる。低所得者のためにより多くの雇用を生み出す。

　これに対して、協力し合う仕事だと、もしかしたら効率が下がるという人もいるかもしれない。しかし、柔軟性の働き方では、勤め先は異なりますが、連絡をよく取り合うことで同じ時間に役目を果たすことができる。

　以上のことはからわたしは若者の働き方はますます柔軟性になっていると考える。

「これからの若者の働き方」として社員の柔軟性とデジタル作業を最も重視を主張したい。

なぜなら、まず長い間、人々は似たような方法で労働してきたからだ。新型コロナに伴い、働き方は大きく変わった、新しい働き方を求める人が増えている。次に、調査によると，半分の人は仕事の柔軟性を楽しむようだ、52%の人が労働時間や場所の柔軟性を重要な要件と考える。また、現代の科学は人生と仕事を大きく変えて、デジタル化で生活も仕事も便利になる。最後に、会社は技術革新と新しい技術人材が必要だ，デジタル技術は社員の自信を高め、社長の経営にも役立ちる。これに対して、柔軟性とデジタル化は仕事と生活の不均衡，個人情報の流出をもたらすという人もいるかもしれない。しかし、新しいことの発展には良いことも悪いこともある、重要なのはそれをどうやって最大の効果を出すかだ。

以上のことから私はこれからの若者の働き方は社会の発展に進化すると考える。

1、作文で主張したい結論はなんですか。

これからの若い人たちは、フリーランスやフレキシブルな働き方を好むようになるかもしれない。

2、結論を支える客観的な情報は何ですか。

これからの若い人は自意識が強くなり、ますます自由を求めるようになる。

3、自分の主張に対し、どのように反対意見が予想されますか。

自由を求めるだけのお金がない。

4、3の反対意見に対し、どのように反論しますか。

まずは安定した仕事をしてお金を貯める。

5、アウトライン

 「これからの若者の働き方」としてフリーランスやフレキシブルな働き方をを主張したい。

 なぜなら、まず、科学と技術の発展とともに、現代社会の就職のストレスはますます大きくなっているからだ。安定した職場の多くは時間が厳しく、ある労働者は朝早く起きて遅くまで働き、ある時、彼らは昼夜逆転して働いていることもある。次に、今の若者たちは、物質的な高度化によって、ストレスなどから自由への憧れが高まっている。また、現在の若者は精神的な楽しみを大切にするようになった。不合理な勤務制度はしばしば退職につながる。労働時間が長すぎたり、無理な仕事をさせられたりすると、心身ともに疲れてしまう、やる気も興味もなくなってしまう。そして、これからの若い人は自意識が強くなり、ますます自由を求めるようになる。最後に、今日の若者は自分自身に関心が高くなっている。私たちは自分の趣味で仕事をするようになった。もちろん、すべての人がフリーランスになれるわけではない。

 これに対して、お金がないと自由を求められないと思っている人もいるかもしれない。しかし、私はまずは安定した仕事をしてお金を貯めると思う。努力はプロセスですから、地道に仕事をして経験とお金を積んでから、自由を求めてもいいのだ。

 以上のことから私はこれからの若者は自由業を好むと考える。

「これからの若者の働き方」私は「退社後は一切仕事をしない」ことを主張したい。最近、リモートワークが増えている。そして、皆は残業したくなくなっている、さらに仕事の後、仕事に関することを気にしなくなっている。

 なぜなら、まず僕の自身の体験は、仕事や授業などの後、すごく疲れる。今通信がとても便利ので、上司はどこでも仕事を伝えられる。ある時、僕はベッドでスマホをいじっていたのに、先生から新しい宿題が出たことがある、僕はとても困った。だから僕は将来、会社に入った後、退社後の邪魔をされたくないと思う。

 これに対して、「仕事が終わってからも真面目に仕事に取り組んだほうがいい」と考える者もあるかもしれない。確かに仕事は大切だ。しかし、いつも来られる仕事に追われていると疲れてしまう。しっかり休まなければ、翌日の仕事がうまくできない、それは損ではないか。

 以上のことから私は、仕事とプライベートを切り分けたほうがいいと考える。

「これからの若者の働き方」として私はフレキシブルワークを主張したい。

 　動画製作、ライブストリーミング、ウェブライターなどのプラットフォーム経済の発展にともない、社会ではますます多くの働き方が登場しており、柔軟な働き方である「フレキシブルワーク」が今や若者の就職における新たな選択肢になった。 なぜなら、まず、仕事の能率を高めるからだ。その働き方の多くは、リモートワークだ。つまり、社員は移動に時間をかけずに仕事に時間を使うことができるのだ。そして、フレキシブルワークは、伝統的な長期的な雇用モデルに比べて、より自由であること。その仕事が適切でなければ、いつでも辞められる。

 しかし、このような働き方では安定しない、従業員が確保されていないという声もある。この問題を解決するためには国に法律が必要だ。

 以上のことから私は「これからの若者の働き方」がフレキシブルワークと考える。

「これからの若者の働き方」として私は柔軟な雇用を主張したい。

 なぜなら、まず若者は、自分の時間を自由にコントロールし、自分の困難を解決することができるからだ。次に若者の柔軟な働き方は私たちの社会を豊かにする。最後に若者の柔軟な働き方は就職競争のストレスを軽減している。

 これに対して柔軟な働き方が安定していなくて、給料が安いという人もいるかもしれない。しかし、インターネットの急速な発展、社会の分業のますます細分化、多くの新しい職業と仕事の机会を創造した。柔軟な働き方で、彼らはより自由に働き、より高い収入を得ることができる。また、質の高い仕事をする人の中には、迅速に対応し、新しい技術を身につけ、大胆にチャレンジし、失敗を恐れない若者が多いようだ｡

 以上のことから私は柔軟な働き方と考える。

「これからの若者の働き方」として私は大企業は必ずしも安定しているとは限らないを主張したい。

 昔は、大企業に入れば安定だと言われていた。しかし、最近は大企業の不祥事やリストラのニュースが続いている。

 個別の現象ですが、大企業は安定しているという意見もある。しかし、個別の現象から見ると,これは既に大方の流れであることがわかる。大手銀行は続々と人員削減の話をすすめている。シャープは2016年度内に3000人規模の人員削減に入るそうだ。まず、コロナの影響で経済は衰退して、多くの企業が倒産したりリストラしたりした。次に、人件費が下がり景気がますます悪くなっている。また、今はボーナス期で労働人口も多く、競争も激しい。自分を高めていかないと、仕事を失う危険性もある。

 以上のことからわたしは自分の強みと合わせて、自分に合った会社や仕事を選ぶべきだと考える。

「これからの若者の働き方」として若者は自主就職、柔軟な仕事を求めているを主張したい。

 なぜなら、まず今の社会は急速に発展し、衣食だけを求める時代を過ぎている。次に、若者が裸で辞め始め、転職を続ける現象が増えている。また、自主的に起業する人も増えている。最後に、専門家の意見によると、柔軟な労働制は企業と従業員にとってウィンウィンである。

 これに対して、仕事の前では着実に個性を磨く必要があるという人もいるかも知れない。しかし、自分の精神的な幸せを求める必要があり、自分の三観に合った職場環境も必要だ。頻繁な転職は心の落ち着きのなさの表れという意見も出てきます。しかし、彼らはより自由で人間的な働き方を求めているだけで、得意と興味の結合点を積極的に探求し、キャリアの長期的な発展と目標設定に有利であるためだ。

 以上のことからわたしは若者は自主就職、柔軟な仕事を求めているを主張したいと考える。

「これからの若者の働き方」として私は内巻きを主張したい。しかし、私が主張する内巻きとは、無条件に競争することではなく、自分のできる範囲でできるだけ遠くまで行くことだ。？

 なぜなら、まず、市場はすでに飽和しており、希望する仕事を見つけるのは困難だ。私たちが努力しなければ、市場から取り残されるしかない。また、私たちは誰もが理想とする仕事を持っているので、そこで止まっていては実現できない。最後に内巻きは自分を高めることでもあるが、毎日パソコンやスマホばかり楽しんでいると自分を後退させる。

 これに対して、気楽に働いたほうがいいという人もいるかもしれない。私はこのように何も悪くないと思って、ただ箇人の追求は異なって、多くの人は自分の努力を通じて自分と家族の生活の向上を望む。

 以上のことからわたしは内巻きと考える。努力は必ず役に立つと信じている。

1、「これからの若者の働き方」として私はワークライフバランスを主張したい。

2、なぜなら、まず、仕事の後に上司からの連絡があったら、すぐレスを返さなければならない。残業を強いられることになる。ライフやワークのバランスを取れない。次に、多くの会社がチームビルディングをしていて、今の若者は休日に、付き合いをしたくない。

3、これに対して、仕事について交流したら、経験を積むことができる。しかも、もっと良い協力ができるという考えもあるかもしれない。しかし、特に小さなことを頼まれた、たとえば上司がコーヒーを買ってきてほしいというような些細なことであれば、とても困惑するだろう。また、チームビルディング中に、答えたくない問題があると、「失礼だ」と感じるかもしれない。

4、(結論)以上のことからわたしはライフやワークのバランスを取った方がいいと考える。

「これからの若者の働き方」として私は若い人はよりリラックスした環境で効率よく仕事をすることを主張したい

 なぜなら、まず、多くの人が夜遅くまで仕事をして、健康を害している。ニュースでは、仕事でたくさんの人が亡くなっているということをよく耳にする。次に、柔軟な労働時間が若者に好まれていることがわかった。イライラしたときにはリラックスして仕事を続けるのもいいだろう。また、職場の雰囲気がいいと、集団で仕事を進めることができる。最後に、いつまでも緊張していると仕事の効率が悪くなる。

 これに対し、ストレスのない社員は怠けるという人もいるかも知れない。しかし、若者はますます自分の考えを持ち、過度なストレスを受けたがらない。内巻き現象が深刻な今、リラックスを求める若者が増えている。

 以上のことからわたしは若者はストレスと競争の激しい働き方を好まないと考える。

「これからの若者の働き方」として私は古い働き方を変えるべきで,仕事の時間は合理的に配分すべきだ。

 なぜなら,まずマスコミの情報によると,長時間労働は、私たちの体によくない。長く働いていて突然死するというニュースはたくさんあるから、そのようなことは二度としたくない。また,自分の体験によると,1日10時間の仕事なら,何日かに分けて終わらせたほうがいいだろう。効率が重要で,品質ももちろん重要だ。

 これに対して,人は怠惰になってしまうかもしれないという人もいるかもしれない。しかし,自分で都合のいい時間を設定して、決められた時間内に終わらせれば、問題はないだろう。そして、働きやすいように,自分を律する機会にもなると思う。自分をより自律的にするためのトレーニングにもなると思う。

 以上のことからわたしは仕事の時間は合理的に配分すべきだと考える。

「これからの若者の働き方」として私は自分の好きな、給料が安定していて就職環境が良い会社を選んで仕事をすることを主張したい。

なぜなら、まず、自分の好きな仕事をしてこそ、続けられ、本当に楽しいと感じることができる。次に給料が安定していると安心感が得られる。そして職場環境が良いことは良い仕事の気持ちをもたらし、仕事の進行を促進する。最後に、今では多くの若者が安定と平淡を追求している。

これに対して、社会の発展に従って、労働者に対する要求はますます高くなって、より強い仕事の能力が必要で、しかもこの競争力がますます大きくなる時代に、更に努力して絶えず自分に挑戦する必要があり、自分を高めて、現状に満足できないという人もいるかもしれない。しかし、私はやはり自分を追求して、何よりも楽しいから、自分が好きでいい。

以上のこれから私は安定した給料があって、自分のやりたい仕事をする方が良いと考える。

「これからの若者の働き方」として、起業を主張したい。

 なぜなら、まずうちの先輩にも起業していく人がたくさんいる。そして、彼らは成功した。次に国の政策が大学生の起業を支援する。たとえば、若者が起業するためのカリキュラムがあり、国が起業した若者に税制優遇や融資をしている。また専門家は、若者の方が考えがあり、努力しようとする精神があると言う。これらは、若者の働き方の選択において起業を促す。最後に今の中国は経済市場が繁栄しているので、起業のチャンスがたくさんある。

 これに対して、これからの若者は正規職に就職し、会社に就職する傾向にあるという人もいるかも知れない。しかし今の若者は発想が強く、自由主義的で、職場での思惑や駆け引きを好まない傾向がある。

 以上のことからわたしはこれからの若者の働き方は起業だと考える。

「これからの若者の働き方」としては鳥就業？を主張したい。

　なぜなら、まずは若者 はワークライフバランスがよくなり、次は生産性や生産性が向上し、また、社員のストレスや疲労感を軽減 し、最後に仕事の満足度や忠誠度を高める。

　これに対して、安定した仕事がないと将来の生活の保証がないという人もいるかも知れない。そして、不 安定 な 仕事 をしていると 収入 が 少なく なり、 自分 の 老後 のために 働く ことができなくなる。しかし、 私 は、すべての人は、すべての人々の考え、生活の状態 を 尊重することを学ぶべきだと思う。そして、この働き方は将来の若者に対して様々な利点がある。

　以上のことから私はこれからの 若者 は自分の好きなことをして、 、 旅行 、アウトドア、ショッピング、 散歩 など、 自分 の好きなことをする 時間 がたくさんあると思える。

「これからの若者の働き方」として、ネットワーキングを主張したい。

なぜなら、まずはコロナの時、学生たちは自宅でオンライン授業を受けて、大人たちはインターネットで遠隔勤務をしていた。次に、科学技術の発展にしたがって、ますますたくさんの企業が遠隔勤務を始めた。

これに対して、自宅で遠隔勤務は効率がよくないし、サボっている人もいると思う人もいるかもしれない。しかし、遠隔勤務の技術がある以上、サラリーマンがサボっているかどうか、会社にはわからないだろう。また、遠隔勤務は、オフラインでのコストや雇用コストを削減することで、企業が景気低迷や競争激化の中で、より柔軟な生き方を模索するのに役立つ。遠隔勤務はますます普及する。

以上のことからわたしはこれから若者の働き方はネットワーキングに変わっていくと考える。

「これからの若者の働き方」として、自由と便利を主張したい。

なぜなら、まず親から経済力の増しの原因でお金を稼ぐために働く状況は少なくなる。次に、不合理の働き政策とブラック企業に多くの若者は妥協したくない。最後に、生活の質を高めることは仕事の最終目的で、だからもし企業は自分の精神や生理を損なっていればその仕事をやめたほうがいいと多くの若者は思っている。

これに対して、仕事の使命は企業と社会に自分の価値を捧げ、子供らしいわがままのお金を稼がないという人もいるかもしれない。しかし他の事より自分の生活は第一位で、お金は普通の生活を支える程度が十分だ。沢山お金を稼ぎたい、そして生活をごちゃごちゃしたら不得策だ。

以上のことから私は仕事より個人生活を考え方が増え、仕事ために生活するより生活ために仕事するという理念がますます流行したと考える。

「これからの若者の働き方」として私は「これからの若者はすぐに安定な仕事ができない」を主張したい。

なぜなら、まず、周囲の人の話によると、現在のほとんどの職場では一定な問題が存在しており、仕事経験ほぼゼロの若者は初めからいい職場を見つけるのは難しい、今の教育方針では、ますます人としての個性を重視し、「耐えるより反抗」という意識も高まっている。つまりいまの若者は自分のお気に入りの務め先を見つける前にずっと転職を繰り返すだろう。次に、人口の多い中国では、どの業種の競争も激しいので、必ず国有企業に入る、或いは、安定な仕事を見つける前に、皆はずっと進学し続けるだろう。実際、私の周りの大半はそういう人だ。

これに対して、若者はきっとすぐに安定な働き方を見つけるという人もいるかもしれない、だが、生活の質をますます重視した今では、やはり自分に似合う、そして、居心地いいの働き方を求める人の方が多いと思う、そしてそれを達するには、必ずすぐには安定できないと思う。

以上のことから私は「これからの若者はすぐに安定な仕事ができない」を主張したい。

「これからの若者の働き方」として私は仕事の自主性を追求することを出張したい。

 なせなら、まず経済の発展に伴い、ある若者はより早く社会に適応するために、同時に各種の技能を身につけることができるからだ。次に、彼らは単調な仕事の分業から抜け出し、同時にさまざまな経験を得て副次的な収入を得て、より多くの自主性と自由を身につけたいと思っている。最後に彼らは自分に合った仕事を見つけるために、よく転職するケースが出てきているからだ。

 これに対して、転職にはリスクがあり、新しい仕事が自分に合わなかったらどうするのかという人もいるかもしれない。しかし、もし1つの会社で長い間働いていたら、自分の選択に問題があり、もっと良い選択があると気づいたとしても選ぶ勇気がなくて、払う代償はもっと高くなるだろう。

 以上のことからわたしはこれから若者は仕事の自主性を求めると考える。